

落ち着きかけていた新型コロナウイルスも再拡大の兆しです。児童や生徒の参加する行事も縮小、中止等の対応をせざるを得ない状況になっているのではないのでしょうか。
そのような状況下ですが、各地区ではコミュニティ・スクールの推進に取り組んでいただいています。
今回は、今年度正式にコミュニティ・スクールとしてスタートした稲津小学校の様子を紹介します。

協働活動の実践

《稲津小学校 学校運営協議会組織》

- 代表委員会
 - ・学校経営方針等承認
 - ・目指す子供像について熟議

- 学習支援委員会
 - ・学習支援
 - ・学習環境整備等

- 安全環境委員会
 - ・登下校見守り
 - ・愛校作業等

- 地域交流委員会
 - ・稲子連キャンプ
 - ・公民館活動 等

代表委員会「熟議」

CSでは「熟議」というキーワードがあります。
「熟議」とは、地域と学校が目標やビジョンをよく話し合い(熟議)、目指す子供像を共有し、協働して活動を進めていくことです。



学校運営協議会 委員会での熟議

令和3年7月6日 第1回稲津小学校学校運営協議会の全体会が開催されました。

全体会の後、学習支援・安全環境・地域交流の3つの委員会

に分かれて、それぞれで目指す子供像「ふるさと大好き」に向けて具体的にどのような活動を進めていくかを熟議されました。

学校と地域が目標や具体的活動のねらいを共有し、同じ思いで活動に取り組むことで効果的な取組となります。

このように稲津小、釜戸小の2校は、コミュニティ・スクールとして新たなスタートを切っています

CSにつながる活動

思いをつなぐ 稲子連肝試し 地域交流委員会

稲津子供会連合会では、例年夏休みに校庭でキャンプを実施してきました。

今年度は、キャンプ自体は中止となりましたが、キャンプのプログラムの一部である「肝試し」のみ7月17日に開催されました。

子連の役員が行事の中心となる6年生と事前の打ち合わせや準備を進め、子供たちが主体となり、楽しめる行事を目指して取り組まれました。

当日は18時00分より開会式を行い、6年生がグループ引率と脅かし役を分担し進めていきました。

朝から子連の役員の方々が、細かなところまで配慮し準備され、肝試しの雰囲気醸し出していました。

子連の会長さん曰く、「自分たちも子供の頃、こうした行事を行ってもらい大変楽しかったことを覚えている。今度は自分たちが子供たちの心に残るような行事を創ってあげたい。」



自分たちの経験を活かし、その意義を次につなげていく。さらに、次代の担い手になってほしいという願いも合わせ、まさにコミュニティ・スクール本来の理念の表れです。

きっと、この思いがまた子供たちの心に残り、10年後、20年後に新たな地域の担い手として活躍する原動力となることでしょう。

地域の方とつながる授業 学習支援委員会



重機の運転って、どんな感じかな

昨年大雨により、稲津小学校のグラウンドが崩れました。

今年度その補修工事が始まり、グラウンドが一部しか使えない状況です。

工事を請け負っている業者が地元の方であったことから、学校はキャリア教育や教科学習の一環としてこの工事を教材化し、各学年とも授業としていくことができました。

児童は、各学年それぞれの教科などで、ねらいを明らかにした取組ができ、間近で見る特別な重機など興味津々な様子でした。

工事現場という制限された環境で、そこを逆手にとり、地域の方と協働して子供たちの力にしていくことは地域学校協働活動の真髄です。

特に、工事に使用している特殊な重機は現在日本に数台しかないものだそうで、このような機会にしか見て触れることができないものです。

今年度のみ取組になりますが、児童の学びが広がりました。